

すぎのこ

164

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2021 10/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 映画研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 滝恋研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝恋村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／滝川幼稚園の園児よりお礼の作品／制作だより／園からの声
 4面 日本芸術文化振興会助成事業報告／第3回 昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル報告 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

人間にとって大切な命のもととは何か

こんな話を聞いたことがあります。

鮮やかな青葉交じりのあじさいの花を、大きな花瓶に入れて玄関に飾っていました。見ると心が和み、とても気に入っていました。

その花がある日、すっかり生氣を失い、しおれてしまっているのを見て、前の日に水をあげたのを忘れていたことに気づきました。あわてて花に水をあげると、しばらくして花々は一斉に生氣を吹き返していったそうです。

花にとって水は命のもとであり、とても大切なものだ改めて認識することができたこととでした。

では人間にとって大切な命のもととはなんでしょうか。それは言葉であると思います。美しい言葉、その人にとって今必要な言葉、心を鼓舞するような言葉ということです。

汚水が花を枯らすように、人を貶め損なうような言葉は、逆に人間の心を腐らせ、滅ぼすこととなります。

自らの心を、どういう言葉で満たし、潤しているのか。また、そういう言葉を与えてくれる人がいるのか。

それがその人の人格を形成し、人生の方向性を導き、人生を決定することになります。

言葉の人間に及ぼす力の大きさを、私たちは忘れてはいけないうことを改めて認識することができると思います。

命のもととも言える言葉を紹介します。皆様の心を満たし、潤すことができましたら幸いです。

*

「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食えどもその味を知らず」

名医は道に生えている草の中から薬を見出し、宝を理解する人は普通の石の中にも宝を見つける。見る目を持った人が見れば、人を幸福に導く真理は至るところに溢れているのに、それに気づき、つかもうとする人がいないことを教えてくれている言葉です。

*

「徳と毒はよくにている。徳は毒のにごりを取ったものだ」

どんないやなことでも、心のにごりを捨てて勇んで引き受ける心が徳の心です。いやなことでも、辛いとか、やりたくないとか思わずにやる、むしろ喜んで引き受ける。それが徳の出来

理事長 大場 隆志



*

ていく土台となります。やらなければならぬこと、やりたくないことを、ばからしいとか、いやだなあというにこった心を取って、感謝で引き受けるなら、辛いことほど徳になるといえます。

漢字では、「辛」という字に棒一本引くと「幸」になります。

「神よ、私に変えることのできないものは、それを受け入れる心の冷静さを、変えることのできるものは、それを変える勇気を、そして変えられるものと変えられないものとを見分ける知恵を、私に与えてください」

多くの人を苦しめているコロナ

ナ禍さえなければ、と誰しもが思うことですが、残念ながらコロナ禍が起きてしまった事実はいくらも変えられない。だからこれを受け入れる冷静さが必要です。同時に、この状況下でも変えられるものがあれば、果敢に変えていく勇気が求められています。

私たち財団法人すぎのこ芸術文化振興会も変えられない事実を受け入れながら、この状況下で変えられるものを果敢に変えて、新しい価値を創造していきたいと思っています。

巡回公演だより

「このつぎなあに」班

「すぎのこへようこそ」とチケットをもぎる先生方。少し緊張した面持ちの子どもたち。ある園で上演したときのことです。「子どもたちが、この日をずっと楽しみにしていたんです」と先生がおっしゃっていました。チケットを渡し、お部屋に入った子どもたちは、お話の世界に足を踏み入れたように感じたことでしょう。お話が始まる前から、人形劇は始まっているのだと感じました。

「このつぎなあに」は、昔の日本が舞台のお話です。冒頭の語りで、子どもたちをお話の世界へいざなうのですが…むむ、難しい。

語り手がその世界をどれだけ想像できているかで、子どもたちのお話へのイメージが変わってくと感じています。

四季の移ろい、たぬきやおじいさん、息子の気持ち。このお話に込められた思いが、子どもたちの心に届くよう、お話の世界へのイメージをたくさん膨らませて、みなさまの元へお届けしたいと思っています。



トン吉とカラス班

暑さが増し、夏本番に差し掛かった7月末、新作を持って北海道へ出発した。

空の広さと視界いっぱい広がる自然。まっすぐにどこまでも道が続いていく。長い移動時間でも車から見える北海道の夏景色が日々の癒しとなった。

滞在期間3週間、平日は毎日上演があり、子どもたちの多種多様な反応に触れることができた。

なじみのある日本の昔話ではないため、何も知らないお話にどんな反応を示すのか。上演中の様子をスマホで録画させていただいた。そこには、前のめりにジッとと舞台を見つめる子どもたちの小さな背中が映っていた。カラスのお

ちゃらけた鳴き声にクスクス。隣の子と顔を合わせてニコリ。トン吉とカラスのやり取りに明るい笑い声が会場に響く。

「よしっ！」手応えを感じ、ほつとした。というのも稽古期間中、淡々と進んでいく芝居に「このままで楽しんでもらえるとは思えない。」と焦りを感じていたからだ。自分が楽しいと思えないものを見せるわけにはいかない。

一度カタチにしたものを崩しては変え、改良を重ねた。新作を形にしていくなかで大変さはあるが、子どもたちの反応からヒントをもらったり、徐々に進化していく楽しみもある。

この状況下、いろんなことが制限されている中で観劇は、より楽しみな気持ちが大きいだろう。子どもたちに楽しんでもらいたい

と観劇を決意された「思い」を想像すると、「ガツカリさせたくない」という思いが芽ばえる。人形操作など一筋縄ではいかない壁にぶつかり、気持ちさがれることもあるけれど、観て良かったと思ってもらえる作品にするために「こんなもんじゃない!!」と、自分を鼓舞して作品と向き合っていたい。

はだかの王様班

ジージージー。静かに始まった音が、段々とまとまって少しずつ大きくなっていく。

「何の音？」

小雨の降る中、私たちは旅の最終日の上演を終え、帰路に着く前のお昼過ぎ、宗像大社の参道にいた。

「セミ？ 蝉時雨？」

毎年聴いているはずの音なのに、その瞬間は、まるで初めて聴いたような気がしたから不思議だ。

その音の中をゆっくり歩いてみると、短い旅とはいえ、無事旅上演を終えた安堵感も手伝って、久しぶりにとっても穏やかな気持ちになれた。あの旅を終

滝川幼稚園の園児よりお礼の作品

2021年7月8日

劇団すぎのこ様

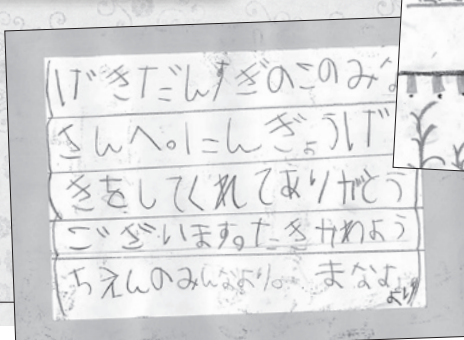
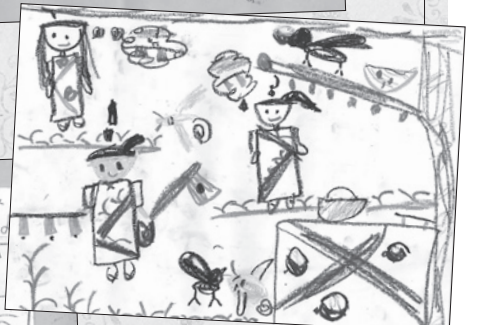
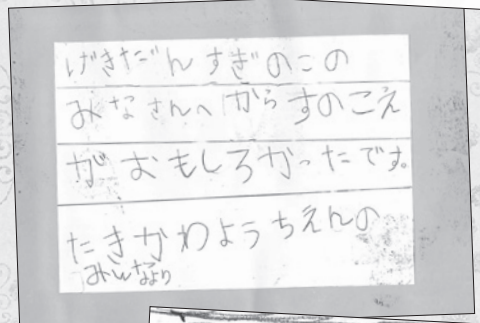
滝川幼稚園園長 泉 敬之

先日は滝川幼稚園にお越しいただき、誠にありがとうございました。また、感染対策にご協力いただき、2度も開催してくださり、大変感謝しております。

感染拡大が続く中で、ご移動も大変だったと思います。北海道においても感染が拡大したり、縮小したりを繰り返していて、道内の様々なイベントが中止となっています。イベントだけでなく、子どもたちが、演劇や歌、芸術に触れる機会も本当になくなっていました。滝川幼稚園としては、その機会を幼稚園の行事として保っていきたいと考えております。

今回、皆様にご来園いただいたことによって、子どもたちの心がウキウキわくわくし始めたようです。先生が発案したのではなく、園児からお礼がしたいと声があがったようです。この思いが皆様の活動にお役立ちできればいいなあと考えております。ぜひともお受け取りください。

この度は誠にありがとうございました。また今後ともよろしくお願いいたします。



えてからもう季節は変わろうとしているが、その後、私たちの班は上演をしていない。がその分自由な時間がある。この時間は、それぞれに貴重な時間をもらっているのかもしれない。

開催も危ぶまれた東京オリンピック、パラリンピックは賛否両論あったが、映像で観る選手の姿に感動させてもらい、私自身は前へ進むための力をもらった。

そういった感動の中でも心が憂うのは、ニュースで見る紛争地域の子どもたちの顔。

福島の様々なこと。

戦後76年経っても残る深い悲しみや、解決できてない数々のこと。夏休みなのに、夏を思いっきり楽しめなかった子どもたちのこと。今年は子どもに、自殺が多いこと。

コロナ禍での病院の関係者の方々のこと。患者さんのこと。

身近な大切なはずの仲間や家族のことを、ちゃんと考えているだろうかということ。

などなど、他にも頭を巡ることが一杯。普段よりはいろんなことを考えようとしている自分に気づく。

そして夏の終わりに最後の力を

制作をよる

最近、夜空を見上げることが多くなりました。

自粛期間は特に闇が深くなり、ここ埼玉でもたくさん星を見る

振り絞っているかのように鳴く蟬の声を聴きながら、私は気持ちを静かに奮い立たせて、次の巡回公演にそなえている。

おむすびころりん班

このご時世、多くの人が自由に身動きが取れず、窮屈な日々を送っていると思う。悩みの尽きない毎日をひたすらしのぎ、生きる。

そんな中で出会う方は、皆、口をそろえ言う。「最近の子どもたちは大変だよ」と。

コロナの渦に巻き込まれ、楽しい行事も減り、友だちと思う存分

遊べないなど、何かと制限が多くなった。幼く、若い子たちに我慢を強いてしまう、そんな毎日。それが当たり前になりつつあるのが、とても心苦しい。

もちろん、コロナに振り回されているのは、子どもたちだけではない。実際、我々も子どもと逢える日が少なくなっている。

しかし、ただ考えてしまうのだ。子どもと逢えない日が一日増えるたびに、皆の楽しみが一つずつ減っているのだと。

そう思い至るたびにやるせない気持ちになり、いつか来るはずの収束の日が、一日でも早く訪れてくれることを願ってしまふ。

無論、我々もその時が来たら、いつでも楽しみを届けられるように、今もそれぞれが自分を磨いている。

嵐を乗り越えた木こそがきれいな花を咲かせ、実を結ぶという。きつと今は皆辛いかれど、抜け切ったら耐えた分良いことがあると、信じている。



ことができます。

星の名前や星座にまつわる物語を思い出しながら、昔々から、世界中の人々が同じように星をながめてきたんだらうなと思ってたりしています。星の光が届くまでに長い年月がかかることを思うと、今自分が見ている光は、もしかしたら「方丈記」を書いた鴨長明や、

「銀河鉄道の夜」を書いた宮沢賢治の時代に放たれた光なのかもしれない。

病気が流行った時、災害が起きた時、彼らはどんな思いをかかえて、空を見上げてきたのでしょうか。

ゆっくりと様子を変えてゆく星たちを見ていると、時間の経つのを忘れてしまいます。毎日心を騒

声の宝庫

はだかの王様

■四恩こども園(大分県)

一人の方が何役もしていて、すごいなと思いました。声のトーンもいろいろと変わり、物語に引き込まれるほどとてもすばらしく、楽しく観劇できました。

■かいぜ保育園(長崎県佐世保市)

「三びきのやぎ」はとてもおもしろく、演出も大人も驚くような工夫がされていてよかったです。

トン吉とカラス

■滝川幼稚園(北海道滝川市)

大正琴や効果音を出していた楽器などに、興味を示していた子どもが多かったです。大変新鮮でした。カラスとかばお君のやりとりが楽しかったようで、すんなりお話のなかに入っていました。

■歌登保育所(北海道枝幸郡枝幸町)

普段目にすることの少ない和物の人形に、子どもたちの関心も高かったようで、身を乗り出して観ていました。

トン吉とカラスのやりとりも楽しかったです。

オリジナル作品ということで話の展開がわからないため、幼児には理解できなかった部分もあったようですが、人形劇という貴重な機会を持て大変よかったです。

いのこぎなぬこ

■栗原保育園(神奈川県座間市)

オリジナルの内容がよかった。四季を感じさせるセットが素敵でした。

■相模が丘西保育園(神奈川県座間市)

幅広い年齢で楽しめました。繰り返しの部分に子どもたちが期待をして、喜んで観ていました。

おむすびころりん

■ルリ幼稚園(茨城県古河市)

今後も、子どもたちが知ってる昔話を観せていただけたらと思います。

■相模すきこの幼稚園(神奈川県相模原市)

年少の園児にも理解できる内容でよかった。コロナ禍、公演活動も大変な状況の中で、大変ご苦労様でした。

がせるコロナのニュース、世界中の人々が共有している大きな危機も、宇宙の時間の流れの中では一瞬のことなのかもしれません。だからこそ、同じ時間を生きていることの意味を考えずにはいられません。

今は、星も見えない闇の中にいるようです。これからどうなるのか、だれにも予想が付きません。ただ、これからどうしたいのかを考えることはできます。コロナの危機が終わった時に、自分が、劇団が、世界が、どんなふうになっ

ていたらいいかなって、思いを巡らしています。

SNSの普及により、場所や時

不安と緊張の続く毎日だと思えます。くれぐれも、お体を大事になさってください。お会いできる日を楽しみにしております。

ほそぼそとではあります。巡回公演は行っております。お招きいただけたら、細心の注意を払ってうかがいます。お問い合わせ、お待ちしております。

(榎本 千里)



独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



トン吉とカラス

「トン吉とカラス」全国巡回公演は、独立行政法人日本芸術文化振興会「令和3年度芸術文化振興基金」の助成事業として6月から7月にかけて北海道にて22公演を行いました。

今年も新型コロナウイルス感染症流行の影響により例年と比べ少ない公演数になりますが、この大変な中観劇いただいた保育園、幼稚園の皆様には心より感謝申し上げます。

9月からは九州地方を巡回する予定です。新しく人形や舞台道具に光触媒コーティングを施工し、消毒や換気など感染症対策をしっかり取りながら巡回いたします。

こんな時だからこそ、私たちにできることを精一杯行ってみようと思います。ぜひ、皆様からのお問い合わせをお待ちしております。

「トン吉とカラス」今後の予定
令和3年度(2021年度)



2学期 九州地方
3学期 関東地方
(菅谷 香純)

そっくりのくりのき



すぎのこの作品の中でも人気の高い「そっくりのくりのき」を、新たに映像演出を取り入れた新演出版として制作いたしました。従来の舞台美術では難しかった表現も、映像では表現することができ

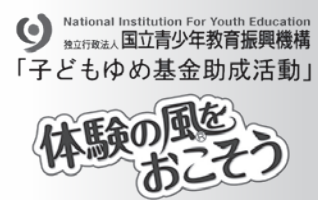
るため、表現の幅がぐんと広がっています。すぎのこでは初めての取り組みであり、試行錯誤しながら制作してきましたが、このよう不安定な時代だからこそ、作品のテーマである「いのちのつながり」を皆様に伝えていきたいと思っています。

今年度につきましては、基本的には関東近辺での幼稚園・保育園様からのご予約のみ承っております。また、機材はすべて劇団が持ち込みますので、施設様の方で特

別にご用意いただくものはございません。
今しばらく新型コロナウイルスが収束する見込みは立ちませんが、

感染対策を講じて安心安全な上演を心がけてまいりますので、ぜひ観劇いただければ嬉しいです。
(福島 亜紀)

第3回 昔話読み聞かせ・ 人形劇フェスティバル を開催しました



8月1日(日) 埼玉県狭山市ソプラティコ狭山に於いて、「第3回昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」を独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受け、開催いたしました。コロナ禍の中、感染対策を講じ実施させていただきましたが、このような状況下にも関わらずご来場いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。

今回は、「茶壺道中」「三匹のこぶた」「三びきのやぎ」「うさぎとかめ」の4作品を、作品の解説と読み聞かせ、そして人形劇で楽しんでいただきました。



物語の解説をすることによって、その当時の文化や解釈を知ったり、各々の登場人物の背景を知ることによって、今まで気づけなかったことに気づけたり、これはそういうことだったのか、と物語の内容を納得したりすることができ、このように物事を多角的に見ようとする姿勢は、私たちが日常生活を送る上でも大切なことだと思います。読書を通じて豊かな人生を送ることができそうです。私たちのこの取り組みが、子どもたちの読書活動のきっかけとなれば幸いです。

この活動にご賛同いただき、ご

劇団すぎのこに ご支援をお願いいたします

困難で不安定な世の中であっても、文化活動の灯を消さないために私共は活動を継続し、そしてより良い公演を目指して、子どもたちの豊かで優しい心を育む活動を続けたいと思っています。どうか皆様のご理解とご賛同をいただき、ご支援をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

〈寄付金の目的〉

財団の運営資金及び巡回公演事業に充当されます。

〈寄付のご金額〉

個人 1口 5,000円
法人 1口 10,000円

〈税制上の優遇措置〉

税額控除額の算出式

個人が支出した寄付金について

確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下の算式により算出された額が、所得税額から控除されます。

(税額控除対象寄付金(※1) - 2,000円) × 40% = 控除対象額(※2) ← この額が所得税額から控除されます。

※1 税額控除対象法人(すぎのこ)への寄附金額

注: 寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当

する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。

※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。

確定申告時に領収書と証明書の写しを添付してください。

〈払込方法〉

下記の口座に任意口数をお振込みください。

きらぼし銀行 池袋支店 普通 0336101
名義 公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会
理事長 大場 隆志
ザイ) スギノコゲイジユツブンカシン
コウカイ
リジチョウ オオバ タカシ



支援をいただいた独立行政法人国立青少年教育振興機構様に、心より感謝申し上げます。
(福島 亜紀)

各種SNSフォロー＆ 登録をお願いします♪

Instagram 劇 団: @puppet_suginoko
巡回班: @suginoko_junkai

YouTube チャンネル登録名:

「人形劇団すぎのこ」

<https://www.youtube.com/channel/UCj3Ra-N-A2o1vJk4nZkaVRw>

活動記録(令和3年7月〜8月)

7/20 第一学期全国巡回公演終了
「第3回昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」開催

8/27 第二学期全国巡回公演開始
「第3回昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」開催